

あじさい

アジサイを訪ねて(第10回)



『伊豆の紫風』

写真撮影：岡部 誠 外岡徳三郎氏宅にて

## Contents

1. アジサイ一年生の南伊豆自生地見学記 岡部 誠
6. ヤマアジサイ展示日本一の継続 大友 三夫
11. アジサイに思う 小川 勇夫
12. シーボルトのアジサイ? 杉本 誉晃
13. アジサイおちこち 山室 修  
秋田 宏
15. 総 会 報 告
16. 事 務 局 だ よ り

## アジサイ一年生の南伊豆自生地見学記

～ 平成 18 年度日本アジサイ協会総会 ～

相模原市みどりの協会 岡部 誠

第一日目梅雨時には、よく晴れた 2006 年 6 月 20 日午後 1 時、伊豆急下田駅に約 40 名が集合、ホテルの送迎用バス 2 台にて見学予定地に向う。

・走雲峡ライン自生アジサイの見学：現地への案内は伊豆の植物に詳しい下田在住の会員土屋隆一氏。30 分ほどで本日の見学地南伊豆町の町道、走雲峡ライン桃源郷に到着、さらに 2 km ほど入廊崎に向って入り下車、三々五々道路添いに植栽された約 3500 株のアジサイを、桃源郷まで歩いて下りながら見学した。このアジサイは桃源郷ネットワーク代表の池野哲也氏（南伊豆町加納在住）が不法投棄予防を目的に、道路添いの山中から、5 年がかりのボランティアで移植したものという。その形態からガクアジサイあり、ヤマアジサイあり、その交雑種と思われるものありで、色とりどりの花色や花形の変異をはじめ、樹形や花序、葉形等の多様な変異にびっくり、同好の会員諸氏は思わず感嘆の声をあげ、数人集まっては意見交換をしながら、盛んにカメラを向けていた。市販のヤマアジサイやガクアジサイしか見たことがなかった筆者にとっても、目移りして焦点が定まらない程、いずれも魅力的であった。また、谷すじ杉林の東斜面下や雑木が茂った北斜面にタマアジサイの大きな自生群落が見られ、開花時はさぞかしと、再び来てみたい思いにかられた。1 時間半程かけて桃源郷にもどり、棚田状に造成されたハス田が一望できる小さな休憩所、「かのう屋」で池野氏の説明を聞く。しかしながら、大半の会員は休憩所に入れず、周辺に集められたアジサイを見て回った。すべてこの地域の山から集めたものとの説明であったが、散策路にはアマギアマチャと思われる株や、すでに流通している園芸品種に良く似た株もあり、多様であった。見学の興奮さめやらぬまま、後ろ髪引かれる思いで、4 時過ぎに宿泊する下賀茂温泉、伊古奈ホテルにはいる。

第 9 回日本アジサイ協会総会は、宿泊先のホテルロビーで予定よりやや遅れて開催された。オブザーバーとして池野哲也氏をはじめ町役場の職員、下田南高校南伊豆分校の先生方や生徒さん達の出席があり、地域活性化をはかる走雲峡里山づくりの現状や活動報告があつて大変有意義であった。最後に山崎理事から自生地見学に感動したお礼の言葉で締め括られた。

第二日目は朝食前の散歩がてら、前日車窓から見えた近くの慈雲寺のアジサイを見学した。北斜面の墓地に数多く植えられ、よく花をつけた、いわゆる西洋アジサイばかりで、彩りは遠くからも目立ったが、なぜか前日の野趣に富んだ自生アジサイの迫力にはかなわない感じがした。

・外岡徳三郎氏コレクションの見学：8 時、大型バス一台になって二日目の見学に出発、最初の見学地は国道 136 号線を少し西に向った、南伊豆町人間の外岡徳三郎氏宅。氏が数年かけて、主に入間地区の山中から収集したというヤマアジサイなど数十株、山裾の田畑との境や竹林の林縁に、よく見比べができるよう、横一列に植えられていた。案内の土屋氏が枝を折らないよう、口を酸っぱく注意していたとおり、思わず手を出したくなるような、魅力的な花や樹形の個体が集められていた。直立性タイプの樹形には初めて出会ったが、アレンジ用切枝やガーデニング素材として利用できるのではと、思わず見入ってしまった。また、外岡氏のご自宅には氏が収集命名した、1 枚のガク片の長さが 4～5cm ある巨大輪のガクアジサイ「伊豆の紫風」が鉢植えて開花していた。いずれにしても、外岡コレクションが園芸品種として、早く流通するようになることを願いつつ、良いものを見せていただいたことに感謝しながら辞した。



・伊豆半島南端のガクアジサイ自生地の見学：バスは 136 号線に戻るように、青野川にそって県道 16 号線に入り、東側海岸を入廊崎方面に向かう途中、見晴し台でトイレ休憩した付近の崖下や崖の上などにぽつりぽつりと、自生のガクアジサイの開花株がヤブの中に遠望できた。さらに南端に向かって進んだ大瀬地区で下車、潮風が吹き上げる、数百mの急斜面いっぱいのガクアジサイの大群落に皆感嘆の声を上げた。土屋氏によると、下から見える頂上よりさらに奥まで自生群落が続くという。また、道路から少し入った藪のなかに、数株のてまり花が見えたので、ガクアジサイから移行したものかと、皆が注目した。しかし、どうやら植えられたものらしいという。自生樹を詳しく観察しようと、ものすごい藪を漕いで近づく会員の熱意には脱帽させられた。下から見上げると、アジサイがびっしり生えているように見えるが、近付くと背丈をはるかに越える藪のなかであった。次に案内してもらったのは入廊崎を回り、西海岸側に入った中木(仲木)地区で下車、道路下まで細い道を入り込み、自生状襲を近いところで観察することができた。さらに進んで差田から再び国道 136 号線を松崎町に向って北上したが、不思議なことに西海岸には自生のアジサイはまったく見られなかった。

・西研豆町大沢里地区のアマガミアマチャ畑の見学と味見：松崎町で昼食をとり、1 時すぎに西伊豆町の大沢里(おおそうり)に向け出発、仁科川に沿って走る伊東西伊豆線(県道 59 号線)を 30 分程で到着、アマガミアマチャの畑に案内される。上流に向かって右側の山中から採集したもので、町の依頼で農家が草刈りや剪定などの管理をしているという。案内の土屋氏いわく、アマガミアマチャの中で最も甘味が強いと。比較してみた事はないが、勧められて葉をかじってみて、甘さを実感した。面白いことに上流に向かって右側の山は天城山脈であり、甘い葉は鹿が好んで食べ、左側の山に自生するアマガミアマチャは甘くなく鹿も食べないという。実生増殖したアマガミアマチャに甘味含有量の個体差があることは理解できるが、川を境にということに興味がつきなかった。午後 3 時頃下田駅で、皆満足した顔で挨拶を交わし、解散帰途についた。

自生地見学という素晴らしい時間を、企画案内していただいた土屋氏と協会事務局には心からのお礼を申し上げたい。

★後日談アラカルト：総会数日後、池田副会長から会報誌に見学記を書くよう電話を受けた。総会時のバス見学では何処をどのように動いたのか、地理感覚が不確かであった。自生地の位置を確かめたかったことと、野性個体変異の状況をもう一度見たくて、安藤秀夫氏と 2 週間後の 7 月 4 日～5 日に同地を再訪した。土屋氏や池野哲也氏には大変ご迷惑をおかけしたが、いろいろと確認することができて大変有意義であった。とくに 5 日は雨足の激しい中を池野氏に車で案内して頂き、お礼の申し上げようもなかったが、総会時の天候は、幸運であったことを痛感した。なお、貴重な見学野帳を紛失してしまい、報告が大幅に遅れてしまったことと、内容が乏しい記憶によるもので、大変面目なく、お許しを願うばかりである。

①池野氏の案内で、雨の中を桃源郷から入廊崎まで走雲峡ライン 6km のアジサイを観察した。ヤマアジサイから海岸に近づくにしたがい、ガクアジサイに見事に変る様子が観察できた。ヤマアジサイとガクアジサイが混生する地域、入廊崎側の数キロは道幅狭く、道路脇はヤブ状態であった。次の機会には歩いてゆっくり観察したい。

②樹形が丸くコンパクトに整う個体や、枝垂れ性の樹姿などは自生地の藪の中では判別が難しい。ヤブの中から道路添いに移植されて、初めて特性の確認ができたもので、貴重な遺伝資源を発掘した意味合いからも、池野氏の功績はきわめて大きいと、あらためて感じ入る。

③自生のガクアジサイの株に半てまり、てまり咲きが観察された。帯化、黒軸なども。

④相模原市北公園に植栽されている、アマガミアマチャ 10 数株について、安藤秀夫氏と甘味官能調査をしたところ、甘く感じる個体は少なかった。甘味のないアマチャは表示違反？興醒めである。天城山脈産の純正？アマガミアマチャの普及をぜひ望みたい。

⑤総会に参加した高校生たちは、自分たちが選んだ株に番号をつけ、増殖をはじめた様子。池野氏の勧めもあって、7 月 4 日あらためて挿し木法を学びにきた。安藤氏が「かのう屋」で対応、地域振興に一

役買ってくれることを期待したい。総会時一部会員が採種していたが、異なる種が混生している所では雑種化の可能性が高く、実生すると色々な変異が現われる可能性が高い。できれば、高校生たちも実生の醍醐味を、後輩に引継ぎながら味わってほしいもの。自生のアジサイは郷土愛やロマンを感じることができる、格好の素材と思われた。

⑥桃源郷駐車場奥の沢で、美しい紅色のヤマアジサイを池野氏が見つけた。支援オーナーにお礼の意味で、奥様の名前をつけて贈りたいと、「かおる」と命名、それを安藤氏が挿し木育苗中。開花初めは白色で徐々に紅がさしこみ紅色になる、可愛い花だ。



①走雲峡ラインでの見学風景



②ヤマアジサイの見事な開花株



③ガクアジサイ



④ガクアジサイ変異



⑤ガクアジサイ系交雑種



⑥ヤマアジサイ系交雑種



⑦ヤマアジサイとガクアジサイの中間系？



⑧ヤマアジサイ





⑨枝垂れ樹形のヤマアジサイ



⑩球形コンパクト樹形のヤマアジサイ



⑪直立樹形のヤマアジサイ?



⑫装飾花3枚のヤマアジサイ



⑬装飾花5枚のヤマアジサイ



⑭スギ疎林下のタマアジサイ大群落



⑮タマアジサイの早咲き? (7月4日)



⑯南伊豆町大瀬のガクアジサイ自生群落



⑰南伊豆町仲木のガクアジサイ自生状況



⑱外岡徳三郎氏コレクションの一部風景



⑲外岡徳三郎氏命名の巨大輪ガクアジサイ  
'伊豆の紫風'



⑳池野哲也氏命名のヤマアジサイ  
'かおる'





## ヤマアジサイ展示日本一の継続

鎌倉アジサイ同好会代表 大友 三夫

「日本の自生アジサイ展」と名付け、展示を始めて七回を終えた。出展のいきさつ一回から三回は会報アジサイ第九号を参照下さい。

展示は神奈川県立フラワーセンター大船植物園・第一展示室で開催しています。JR 大船駅下車西口より歩いて13分、立地条件は良い。1962年7月開園、年間展示団体は37団体である。当アジサイ同好会の展示希望日はなかなかとれない。

2002年6月第三回展の開催中に日本アジサイ協会の総会が当植物園で開催された。山本武臣元会長に展示を是非見て貰いたかったが病気で欠席……当時の入場者は2800人、総会出席者50人にも見もらった。大磯在住のアジサイ協会会員杉田佐斗子さんより入会の申出を受けた。パートナー五十嵐建夫副代表と対話を持ち、即入会。アジサイ展終了後杉田さんの自宅を訪れ、庭を見せていただき鉢植えのアジサイを見て歩いた。

その後友人と拙宅へ。手に挿し木をしたポット苗を5鉢持ってきてくれた。中心に一本、しかも挿して間もない。いぶかる私にこれで大丈夫という。のち懸命に育て根付いた。

### 1. 同好会組織作り

展示四回目にかけて、新種ヤマアジサイ収集に燃える五十嵐さん200種目指して走る、新種収集と開花にも優れた力を発揮、第四回展に70種90鉢を出陳し私を支援してくれた曲一方、30鉢を出陳した杉田さんも鋭いアジサイの鑑識眼を有し苗出し有償苗の販売に努力してくれた。

五十嵐さんと相談し役員就任を要請した。池田顧問、三役体制が確立、杉田さんのご主人の支援もあり総ての担当をこなし、今や販売面でもキャップとして活躍している。また女性群のリーダーとして、後輩の北形政江さんを育てている。2004年から2005年に相次いで入会者が続出した。最近特に一芸に長けた方々が入会、クレマチス、山野草、菊、朝顔の栽培に長年情熱を傾けてきた、その道の達人達。アジサイ展に来場しヤマアジサイに魅せられた人達である。2005年には25人、翌年の第七回展には20名の出品者があり出品点数は180種230鉢を数えた。

### 2. 支援体制

#### ① 会員による育苗支援

第一回展示より私の泣きどころは搬入、搬出、毎日の苗の補給である。花付き苗は2002年までは池田さんの支援を受けた。今年は販売苗(花付き苗、三年苗)の準備を一手に引き受けた。数年にわたり挿し木に精を出し1000鉢もの苗を管理している。鉢土などの手入れには数年前より木村、杉田、北側、田中等の女性群の手助けを得ている。

2003年から2004年は6月、8月と風邪と疲れが重なった。今年はMRLの結果「頻発性脳梗塞」の判定がでた。

枝伐り、挿し木苗の鉢上げ、施肥もままならず杉田さんのもと遠くからも助っ人が手伝ってくれた。今年だけは5月に通念の挿し木の10パーセントをやっただけ。アジサイの手入れをする気にもなれず水やりと肥料やりを一回だけ、こんな年は初めてであった。しかし開花はよかった。名人池田さんも開花は不作とか、当方の花付き苗はいつもの年よりも多かった。

#### ② 会期中の搬入・搬出支援

アジサイ展は当方では鉢植えによる展示である。それだけに身近に見られ共感と対話もはずむ。

「香りのするアジサイがありますね」と女性が声をかけてきた。「えー」と小生、展示の所へいって見た…。屋久島で発見された池田さんからいただき育てた5年生のカラコンテリギである。葉はノコギリ状で細く長い、馥郁たる芳香がしていた。いつも外で接していた私はビックリした。バラとか香りの良い花とかとは違いますが驚きでした。数年後、五十嵐さん曰く、屋久島のアジサイは香りのするものが多いということでした。当会展示のベスト3に毎年入っている。

搬入・搬出は当初は数も少なく、玉置俊明さんの支援と五十嵐さんにオンブにダッコ、毎日ご苦勞の

かけつけであった。元会社仲間の門倉、田中(昭)両氏の支援を受けたこともあった。

なにせ搬入は乗用車7台になる。展示のための資料、小道具、写真(額入り)、配布チラシ、有償苗、展示苗、その他、毎年増え続けた。今年も木村、田中夫妻、浦山さんの地元勢、横浜から高田正吉さん、茅ヶ崎の中田さん達の支援を受けた。

#### ③ アジサイ協会の支援

三回展から六回展にかけ杉本理事より特別出品の展示品をいただいている。最初は山本元会長の遺作、マイコ、木沢の光、フランスの額花アジサイの三点。マイコはやや大きく見事、自宅に持ち帰り写真におさめた。木沢の光はアジサイ誌の表紙を飾った。後のヤマアジサイ二点は私の秘蔵写真集にしまっている。

秋田理事は会期中二回、三回と来てくれ自作の写真等のアジサイの資料をうちの女性群に配ってくれる。お客様にも積極的に説明してくれる。当会員のファンも多い。奥様も一緒に来てくださった事もあり、感謝しています。聞けば一関のみちのくアジサイ園、関東近在のアジサイ園にも詳しく、遠く九州は川内まで足をのばし松元さん宅にも立ち寄ったというアジサイ好き、頭が下がる。当会でも貴重な方である。

第五回展には故岩佐前会長も生出しになり、熱心に見ていただいた上、五十嵐講師のアジサイミニ講習に耳をかたむけ最後まで聴講された姿が目につく。当会の中田光治さんが撮った写真がある。この写真を含め50余点を生前に謹呈し喜んでいただけた。

#### ④ 写真班

展示初回より机上の展示と壁面を飾る写真の展示である。私の写真は会社生活での集合写真、後援会でのお客様の写真撮りであった。定年を前に鎌倉に住み富士山、江ノ島の景観に魅せられ自然の写真撮りに移った。師と仰ぐ人もなく、クラブに入会もせずただ写していた。カメラ店、一緒に撮っていた友人・知人の情報により徐々に向上した。ヤマアジサイにめぐり逢い、鶴岡八幡宮の野生アジサイ展での写真撮りが始まりである。三脚を使いPCフィルター、フィルムもリバーサルを買い少しずつ進歩した。とりためたアジサイの写真はざっと600枚、うち半数が使える。しかし種類は毎年重複してしまう。自分で挿し木をし、育てて開花、姿が良く写真にふさわしいとなると、なかなか簡単にはいかない。

美しさをどう表現する、芸術性を捨て、見て誰でもわかる表現に決めた。知人の歯科医東海林先生に教わったクローズアップレンズを使い始めてまた一歩進んだ。そして日本の自生アジサイ展が始まった。チャンスと世に問うた初めての展示、以降七回に及んだ。

写真もエル判で友人、同好会会員などに50枚程度をアルバムに入れ謹呈した。搬出入、手伝いに来てくれた方、協会でお世話になった方、遠隔地で私のアジサイを育ててくれる方、仙台、静岡、長崎で20余人。続いて第二集、第三集をつくり始めている。

会員に武内美和子さん、写真では私の一番弟子でありアジサイ展を手伝ってもらっている。いつもここにこ明るく陽気で案内の対応は抜群、会員間の信頼もあつい。今年始めて朝六時に来宅「撮りたいヤマアジサイを選びなさい」というと6、7鉢を自分でさがして持ってきた。この方向からと三脚を上げ、構図をつくる。私はじっと見ているだけ。構図を見て、ファインダーを覗く、ピントを確かめ、シャッターをきらせた。絞り中心に11-16にして再度シャッターのリレーズを押す。出来た写真をみて、ヒルズカメラ店の奥様に褒められ、4点4PWと4Pに拡大する。後日、武内さんに見せる。あなたの写真はこれとこれ。飛び上がって喜んだ。手にしてしばし眺めていた。来春、展示オクケー第一号となる。

#### ⑤ 広報活動

中田光治さんは当会の三行書の写真を撮り続けている。展示・見学・ミニ講習など提供してくれるのでありがたい。他にも四人写友は増えている。私のアルバムにも納まる写真も生まれ始めた。

他にも五十嵐、杉田さんを始め、良い写真は保存している。横浜で整体師をしている荒巻さんは腕の脇で治療をする。会社生活40年、定年後苦しみぬいた腰痛もいまや休火山。首の悩みもこりもどこへ行ったのか？私の主治医である。歯のゆがみも治ってしまった。歯科医の先生もビックリ、いい方向に治っていますと。荒巻さんは私の勧めで複合複写機エプソンを買いこみ写真にも生き甲斐を求めている。当会アジサイ展示にも来ていただいている。船橋に住む、かつて勤務していた会社の社友・佐伯保則さんもアジサイ展に来て写真におさめている。当初のポスター第一号の制作者である。こうした方々の写真の良い物は小生の長男・清成のパソコンに収録せしめ始めた。その数400点を超える。4枚、8枚、32枚組みと当会ポスター作りは見事。杉田さんのご主人と二人で



作ってくれている。

三年前大船フラワーセンター植物園の園長の要請で展示団体に広報にも手を貸して欲しいとのこと。アジサイの写真をもとに「日本の自生アジサイ展」の葉書、ポスター作りをしている。A3～A4にして市内、公民館、町内会、JR、植物園等に掲示している。葉書も会員に配布、手分けして全国に700枚ほど郵送、リピーター、苗の購入者、全国の私の支持者宛に日程を知らせている。

### ⑥ 取材

私のアジサイ写真も役立つときがきたようだ。毎日新聞の取材が二回、小田急沿線情報誌「CUE」、雑誌「一個人」06.7.1発売、今年6月発刊の読売新聞関東版にも当会の活動が掲載される予定。(財)日本花の会編「花の友」春86号に池田副会長を經由して写真が掲載された。池田副会長文の「豊に広がるアジサイの世界」の写真11葉である。

英国王立園芸協会日本支部「RHS J」誌より杉本理事を通じてクレナイヤマアジサイの色つき写真が欲しいとの要請があり電話でのやりとりで了承した写真は小生が杉本理事に贈った写真集に収録されている当会の五十嵐建夫さんの撮ったものと思われます。「ヤマアジサイを表舞台に」情報誌の写真のタイトル、鑑識眼がすばらしく気に入った表現である。

07年5月号掲載予定の読売新聞から取材をうけた。関東一円に配布16万部という。この取材も挿し木の仕方と解説、インターネットでみてきた。カメラマン同伴で写真も提供している。当会遠隔会員、横浜市、水戸市在住会員を私と杉田さんで紹介した。テーマは家庭園芸・ガーデニングという。マンションで家庭でアジサイを育てている方です。

### 3. アジサイのミニ講習会

アジサイ人気に入場者も増え続けている中、植物園より開催中にアジサイミニ講習をとの依頼があり03年よりはじめた。土、日曜日、五十嵐講師の誕生である。講習、二回目三回目には支援策としてヤマ・エゾアジサイの苗を用意した。開始前に整理券を配り講習終了後に渡す方式で二年続けた。雨天には講習室で行った。04年には岩佐会長も参加され、苗も運んでくれた。ミニ講習の席について途中で席を立つ人はなく手にペンを持ち90分間聞き惚れている。

会員で聞きたいという声が増えた。06年、会員に連絡を廻した。

#### 1. 展示方式の説

2. 五十嵐講師による日本のアジサイ史 日本生まれの日本育ちのアジサイがどうして欧州で広まったか? シーボルト一人と思っていた私だったが? 他に先人二人の外国人が…山本元会長の語った本をすべて読破し17冊ものアジサイ関連本を研究した三年の成果である。アジサイ栽培の達人がアジサイ史を語る。アジサイの実物を持っての解説である。

日本アジサイ協会も講師の認定制度を創設してはと考える。日本のアジサイ史が語れて挿し木を取得、育苗と開花を毎年続けている人材でよい。園芸本で他の園芸と併せてテレビに出たり本に書かれたりした人のアジサイ解説は物足りない。毎年アジサイ栽培に打ち込んでいる人物、当会では即三人推薦できる。二年後には更に三人に増える。

#### 当会の展望と課題

11月23日、大船フラワー展示団体の会議があった。いつも2月の決定ではという志村園長のご配慮により前倒しの会議となった。07年5月29日火曜日から6月3日日曜日に決まる。始めて日程が当会の要望通りに認められた。6月2・3日には五十嵐講義が聞けます。お出かけ下さい。時間は五十嵐、大友に電話をして下さい。

こうして順風を受けているかにも見える当会だが、フラワーセンター大船植物園にも問題がおきている。開園40年、施設の老朽化とアスベスト除去に伴う工事、更に平塚市に新設の「花と緑のふれあいセンター」による縮小構想、県職員の説明会が開かれた。

当然起こった反対の嵐、展示団体は横浜市の団体が多く鎌倉市は少ない。年三回展示を行っている盆栽協会より署名運動の要請があり、当会は14人の活動で全3800人署名のうち1800人を集めた。更に展示団体の会合で37団体が何もせず、あきらめの声反対の声など手ぬるい。私も発言した。署名のうち当会は二分の一を集めた。いい展示をしてお客をもっと呼び込むことこそ大事だ。PRで協力しようと。3,4人が拍手してくれた。

更に05年8月第二回反対の署名、知事、県議会への陳情を行った。鎌倉市の対応は聞こえてこない。主催団体に呼びかけた「反対でなく大船植物園を守る会かどうか」。

その後「大船植物園の機能を守る市民運動」が始まった。各主催団体は本気になり、大船駅西口と植物園前で署名運動を開始した。当時前年6月に引き続き8月夏風邪をひき一ヶ月自宅でウロウロしていた。五十嵐、太田両氏に資料を渡し手配を頼んだ。25名の会員中17名が参加し3500名の署名を得た。小生と五十嵐さんと主催団体に話し大船NPO総会で事の次第を話し協力を求めた。10団体の協力があった。

かくして署名は三万名を超えた。知事もビックリ、全面保全に県議団9人、鎌倉市議3人、取材に毎日新聞、当会も参加。六万平方メートルの縮小問題は保留を全会一致で可決した。しかし第一展示場のアスベストのある控室(休憩の部屋)は閉鎖、いまだ工事に至っていない。

入園者は05年2万7千人と盛り返したものの低迷中である。当会のアジサイ展示は人気ナンバー1。05年には5千名を超える入場者が最高。11月23日には入場者を増やす方策の意見交換があった。明るい話題は少ない世相を反映している。

当会「日本の自生アジサイ展」に来てくださる方の93パーセントは初めてという。花が開花しても本来の色彩豊かなアジサイが少ないと菌だしにもビビリ。一日10人が当番で詰めるので展示の解説が出来る人材作り、07年は日程が一週間遅くとれたので展示アジサイは色彩も良くなるものと期待して終わりとします。

#### アジサイ展風景



手前から門倉会員、池田、荒木両副会長、杉本理事↑

#### 五十嵐氏のアジサイ講習会



左上で立って見守っているのは故岩佐前会長↑



故山本元会長の出品作



マイコ



木沢の光

大友氏の蒐集品と写真作品



胡蝶の舞



普賢の華



綾



別子テマリ



ミヤマ ヤエ



伊予白



雅



濃紫

アジサイに思う

相模原市長 小川 勇夫

つらつら考える。

歳を重ねるにつれ、朝の目覚めが早くなり、NHKの「ラジオ深夜便」を聴く日が多くなった。毎朝五時、番組の最後にその日の誕生日の花と花言葉とともに、歌人鳥海昭子さんの短歌が披露される。本市の花アジサイは六月十五日の誕生日の花で花言葉は移り気、乙女の愛。鳥海さんは「紫陽花は でんでん虫と仲良しだ 一人言う子の クレヨン動く」と詠んでいる。花言葉からすると市の花には相応しくないと思わぬでもないが、ほかに一家団欒、家族の結びつきなどもある。

二十二年前市制二十周年を記念した市の花制定に際し、十種の候補花の中でアジサイを選んだ市民が圧倒的に多かったとのこと。

日本原産の花で、古くから人々に親しまれ、神戸や長崎などの国際都市をはじめ五十数都市の花とも聞く。遠く万葉集でも二首詠まれていると聞けば、なるほどと思う。今年に続き、来春も新しい市民を迎える本市にとって、小さな萼が集まって手鞠状の美しい花を形作っている様は、まさにこれからの町作りを象徴する花ではなかろうか。

ある雑誌の「アジサイの名所ベストランキング」で、相模原麻溝公園・相模原北公園が、東日本の第二位に選ばれた。品種が豊富で、市の花として大切に育てられていることなどが理由と聞いた。

去る十、十一日に、この両公園で恒例のアジサイフェアが開催された。今年は春先の低温や記録的日照不足が続き、担当者の苦労も大変なものがあったかと思うが、それぞれ百二十種六千株、二百種一万株のアジサイがハナショウブとともに八万一千人の見学者を魅了したという。

津久井地域からも大勢の人たちがおいでになったと聞いてうれしい限りだ。来年も個性豊かな美しい花を咲かせよう。

新役員紹介

会報にも執筆いただいている大場・難波両先生と、また会員で弁護士の小川先生に顧問への就任をご承諾いただきました。

日本アジサイ協会顧問

- ・ 大場 秀章 東京大学総会研究博物館 元東京大学教授
- ・ 小川 栄吉 弁護士
- ・ 難波 成任 東京大学大学院教授



## シーボルトのオタクサ?

理事 杉本 誉晃

以前(1995年)、コリヌ・マレさん(フランスのアジサイ研究家)より10種類程のアジサイの枝を頂きました。その中に「OTAKUSA」のラベルの付いた物がありました。挿し木にして大きくなった物を麻溝公園(相模原市)、新潟県立植物園にそれぞれ1鉢ずつ寄贈しました。そして、いつの間にか我が家の「OTAKUSA」は大鉢となりました。

ロベール・マレさん(コリヌ・マレさんのご主人)によると、ご生家の庭園(パーク・ド・ムチェ)に伝わる「OTAKUSA」は1904年に「姫アジサイ」、「トウキョウ・デ・ライト」と共に植栽されたと記録されています。私はこの「OTAKUSA」がシーボルトの「オタクサ」ではないかと推察し、東京大学教授大場秀章先生に2004年日本アジサイ協会総会において講演していただいたおりにお話をしました。ご興味を示していただいたので、開花株に仕立ててお送りする約束をしました。

その年の夏、私は再びフランスへアジサイを見に行く機会を得ました。坂本副会長、鈴木美智子理事、安西直子理事、(財)相模原市みどりの協会の座間由紀子さん、坂本副会長の長女佳子さん、パリ在住の友人と7人の旅となりました。

奇しくもパーク・ド・ムチェに3本のアジサイが植栽されて100年にあたり、36ヘクタールの広大な庭園にある大きな「OTAKUSA」に私は再会しました。その折まいたいただいた枝を挿し木したものが本年開花したので、大場教授にお送りしました。教授からお礼の言葉と共に「花序が正規の半球形にならず平べったく、Flora Japonicaの図に良く合います」また「オタクサの分類学上の立場から研究してみたい」とお手紙を頂きました。

マレ家の「OTAKUSA」についてはこれ以上調べようがない。しかしマレ家と我が家の「OTAKUSA」がシーボルトの「オタクサ」である可能性があるだけで私の夢は膨らみます。

※2005年7月記



## アジサイおちこち

### 湯ノ沢アジサイロード

慶應大学ワンダーフォゲル部OB 山室 修

山好きの大学同窓の仲間でハイキングコースの整備と併せてアジサイロードをつくりました。アジサイの栽培については初心者ばかりでしたが、山中に咲くアジサイの花に魅了され取り組みました。

場所は上越の苗場スキー場の奥の山中で群馬県の四万温泉に抜けるハイキングコースです。

最初は挿し木で、次は根分けを主体にアジサイを植栽し、それからは育てている周辺のクマザサやその他の草木をがっちりと取り除く方向へと作業を進めたところ、株がどんどん毎年広がっています。作業を始めて5年が経ちましたが順調に推移しています。

昨年(平成18年)は三回程現地を訪ねていまして、6月と7月はアジサイロードの作道、整備、8月は花の咲き具合を見ることを主体としました。見事に咲き誇っておりました。群をなして育てているところが10カ所くらいありますが、それぞれに素晴らしいボリュウムをなして咲いていました。このところの二年連続の冬の大雪により倒木で乱された箇所もあるのですが、手を加えてやれば又立ちあがってきます。エゾアジサイが相当根強いものを持っているのに感心しました。

アジサイロードは標高1100メートル位のところです。日当たりとか土の関係とかで育ちにばらつきはありますが、我々は大変満足をしています。「三国エゾアジサイ」と名付けました。この後は、色々なアジサイを植えていこうではないかと考えましたが営林署の職員の方から「植生を乱すことはやめて欲しい」との指示がでましたので取りやめました。従って一品種だけになってしまいましたが、毎年としごとに大きく群生化していく、このアジサイに満足しています。

問題はこの感動を出来るだけ多くの人に見ていただきたいのですが、地元の人達がなかなか見に来てくれないので淋しく思っています。一度、越後湯沢からバスを仕立ててコースを歩いてもらったのですが、それからの広がりが無いのが誠に残念?といったところです。(その時は「イヤー地元の為にこんな素晴らしい事をしてくれたのですか」などと皆さんから言って貰ったのですが□。)草花への感動は田舎と都会の人とは違う様です。

この場所は、6月頃に赤いタニウツギが綺麗です。近くにお越しの折は是非立ち寄ってみて下さい。





### ヤマアジサイの新品種2点

理事 秋田 宏

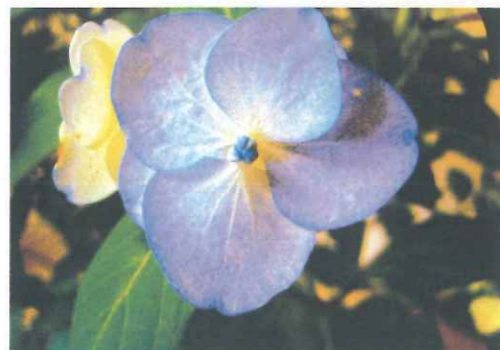
#### 1. 関東で黄色のアジサイと騒がせた犯人は？

大手の苗の販売会社が予約販売をしたが届くことはなかった。

練馬の溪流釣りの人が見つけ、知人の狭山の山草業者「喜宝園」に届けられ、山草家の清水氏から頂いたものを「木曾変化」と名付け、咲き始めから短い間、黄色で後半青に変わる。他のアジサイに比べて黄色の期間が長い。

#### 2. 日向の黒アゲハ

鹿児島県の協会会員の松本氏から頂いたヤマアジサイですが、浜アジサイの歯は光沢あり（例外あり）、ヤマアジサイとユキアジサイの葉は無光沢であるというのが定説であるがこのヤマアジサイには光沢がある。一番下の葉は無光沢であり、照り葉によるものではないか？



### 平成18年度 日本アジサイ協会総会報告

\* 平成18年6月20日 静岡県賀茂郡南伊豆町 下賀茂温泉にて開催

\* 議事に先立ち岩佐吉純会長のご逝去を報告の後、ご冥福を祈って池田副会長の先導で黙祷をささげる。

司会	安藤理事
開会の挨拶	坂本副会長
議長に荒木副会長を選出	
議事進行	荒木副会長

報告事項 池田副会長

- ①平成17年度事業報告
- ②平成17年度決算報告
- ③平成18年度事業計画案
- ④平成18年度会計予算案

#### 監査報告

平成17年度決算報告について安西監事より適正の旨の監査報告

#### 審議事項

- ①平成17年度決算承認の件
  - ②平成18年度会計予算案承認の件
- 以上二件の審議事項可決

その他 司会 安藤理事

- ①新任理事紹介 (財)相模原市みどりの協会理事長 岡部誠
- ②次期総会会場について 事務局一任
- ③アジサイ植栽/管理等の質疑応答
- ④事務局からの報告 顧問就任(大場、難波両先生)

閉会の挨拶 山崎理事

\* 平成17年度決算書・平成18年度予算書・平成17年度事業報告・平成18年度事業計画は別紙



## 事務局便り

・品種の確定・品種名統一について

\* 平成18年3月25日理事会で議題となった品種統一についての調査報告

### 1、クレナイ

長野県飯田市の市瀬正美氏が同市の山林で発見。伊那で発見は誤り。

同県高森町の手塚章氏(会員)により「呉藍」(クレナイ)と命名し、発売。

その後、多くの園芸業者により紅(クレナイ)、クレナイ等として販売されているが、紅は紅(ベニ)山アジサイと混同される事があり、クレナイで統一したいと手塚氏より提案が有り、協会としてはクレナイと統一。

### 2、木沢の光(乙女の舞)

愛媛県木沢村の久保光徳氏が同村の山林で発見。「木沢の光」と命名。

知人の園芸業者に渡したところ、久保氏に無断で「乙女の舞」として発売されたが、これは木沢の光とすべきである。

### 3、三原八重(ブルーサファイヤ)

15~16年前伊豆大島在住の自井歌夫氏(故人)が三原山麓で発見。

関東の種苗会社より三原八重と命名し、発売した。

数年後、関西の種苗会社より「ブルーサファイヤ」として発売されたものが酷似しているので問合せたところ、ヨーロッパの野生種と全く有り得ない回答が有り、数名の会員に比較を依頼。同一品種と思われるとの回答であった。

### 4、七変化

近年、「七変化」の名称の山アジサイが多く販売されているが、七変化はアジサイの別名であり、不相当との坂本副会長他数名の会員からご指摘を戴き、生産者の愛知県在住の中川勝四氏(会員)に発見者・命名者の調査を依頼した。中川氏より発見者・命名者共不明との連絡を頂いた。

どなたかご存知の方は事務局までご報告下さい。

- ・ 発行が遅れまして大変申し訳ありませんでした。
- ・ 次号以降に掲載する原稿を募集しております。原稿は、できればCD-R・フロッピーディスクでお送りくださると幸いです。

故小川勇夫相模原市長のご逝去を悼んで

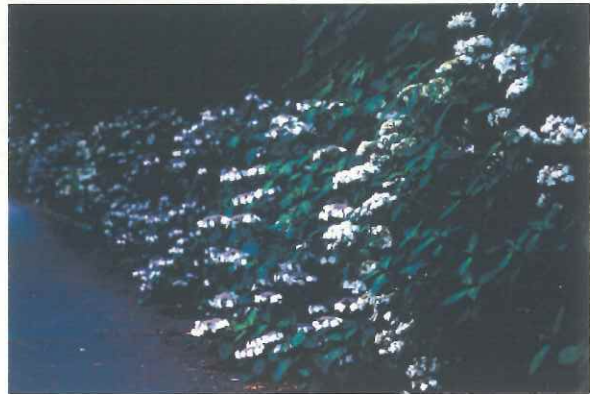
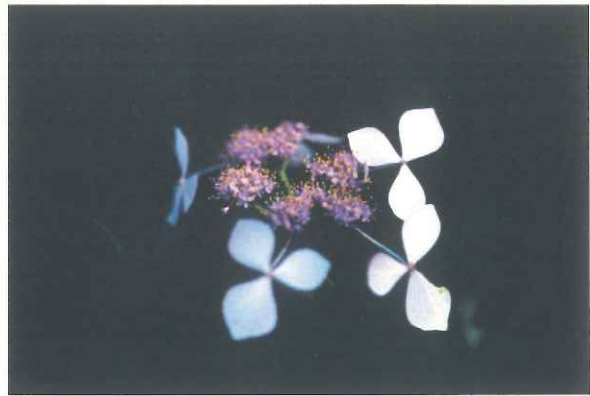
相模原市長・小川勇夫さんが病氣療養中のところ三月二十一日逝去されました。

今回の協会会報17号に「アジサイに思う」の原稿をお寄せ頂いていましたが発行を目前に残念な事態となりました。

故小川市長さんは会報の記事でわかりますようにアジサイに強い関心と理解をお持ちの方でした。日本アジサイ協会に対しても(財)相模原市みどりの協会を通して協力を惜しまれぬ方でした。相模原市の市の花制定二十周年の式典で一緒にテーブルカットを行った事があらためて思い出されます。奇しくも協会の会報に記事を頂戴致したときに悲しくも訃報をお聞きする事になりましたが、深いご縁を感じています。この事を皆様に報告申し上げ、故小川勇夫市長のこれまでの日本アジサイ協会へのご厚誼を感謝申し上げますと共にご冥福をお祈りしたいと思います。

日本アジサイ協会 副会長 池田正弘





南伊豆のアジサイ達

写真：安藤 秀夫

第17号 あじさい

2007年3月発行

発行 日本アジサイ協会  
事務局 〒173-0037 東京都板橋区小茂根 5-3-11 杉本誉晃 方  
\*日本アジサイ協会事務局\*  
TEL 03-3956-8423 FAX 03-3530-7707  
三菱東京UFJ銀行 荏田支店 口座番号 普通 0481343  
ホームページ  
<http://www9.ocn.ne.jp/~ajisai/>